

# 幼児向きのお菓子の音楽

東京高等師範学校教官

井 上 武 士

こども向きのお菓子にキャラメルや駄菓子があつたり、お子さまランチがあるように、音楽にも幼児向きの音楽があります。それでは一體どんな音楽が幼児向きかということをし考えてみましょう。

## ○リズムミカルな音楽

『はじめにリズムありき』と誰かがいつたように、リズムは音楽の生命であり、脈搏です。

そして音楽の鼓動です。こどもたちは、リズムによつて音楽の生命をつかみ、音楽の鼓動を感じます。

そこで世間の人はよく『幼児にはリズムミカルな音楽を』といます。さてそのリズムミカルな音楽とは一體どういう音楽をいうのでしょうか。

リズムミカルな音楽とは、『リズムのはつきりした音楽』とすることができましょう。それでは如何なる場合に『リズムがはつきり』するのでしょうか。

まず第一にその楽曲のリズム構造の単位となる一小節の形式が、單純であることがその大切な条件となりましょう。一

つの音符（一拍となる）をあまり複雑に細かくくなくと、リズムがはつきりいたしません。

第二には單純な一小節のリズム形式をいつもくりかえしていくということが、リズムをはつきりする条件となりましょう。よく歌われている『港』（吉田信太氏作曲）を思いだして下さい。どの小節でも『タタタンタン』という第一小節の形式をくりかえして居りますから、これを聞いたり、歌つたりする人の心にリズムをはつきりと印象づけれます。

リズムミカルな音楽とは、よくいうことですが、さて如何なる音楽がリズムミカルかということをよく研究して、これをえらぶことが大切だと思ひます。

## ○樂式の正しい音楽

次に幼児向きの音楽として考へていただきたいことは『形のととのつた音楽』ということでありませう。

よくあることですが、先生の趣味で、ひどく手のこんだむづかしい歌を歌わせて喜んでゐる方があります。舞踊や、お琴のおさらいなどに親たちの趣味で、きゆうくつそうな服装

やお化粧をさせて、舞臺に立たせるのを見かけますが、あの不自然さが、丁度このむづかしい歌を歌わせて、先生だけが満足しているのと同じだと思ひます。

こどもはラヂオなどで放送されるものは、すいぶんむずかしいのでも平氣でおぼえます。先生方も耳なれていてとそれが大變よい曲のように思われるのは無理はないのですが、その不自然さはこどもたちの音楽の教養の上に決して良い影響を與えないと思ひます。

こどもたちにはなるべく形の端正にととのつたものを與えなければなりません。

『形のととのつた音楽』というのは結局樂式の正しい音楽ということになります。

幼兒の音楽教育として最も大切なことは、音楽の基礎を養ふことです。音楽の基礎を養ふことには、樂式のととのつた、基本的な形式のものをえらぶことが大切です。つまり樂式のととのつた音楽をえらぶということが、幼兒向きの音楽として大切な條件となると思ひます。

### ○和聲的構造の正しい音楽

樂式の正しい音楽ということとは、和聲的構造の正しい音楽ということと、共通する部分もありますが、とにかく樂曲の和聲的構造（和音連結の様式）の正しいものをえらぶということも幼兒向きの音楽として大切な條件だと思ひます。

和音連結の基本的な形式を正しく守つた音楽を與えるとい

うことは、いわゆる和音感を養成する上にも大切なことで、それが音楽の基礎教育として非常に大切なことです。和音連結の基本的な形式を無視したものや、無用に轉調したものなどをわざわざ小さいこどもたちにえらぶ必要はありません。そのような先生方の不用意が、こどもたちの將來に深い關係のあることをよく考えなくてはなりません。

### ○幼兒向きの音楽指導

小さいこどもたちにむづかしいものを歌わせて、それが如何にも先生方の手柄でもあるかのように考えたり、わざわざ小學校の教材や、ラヂオの童謡歌手の歌う曲を教えて得々としているのは大人の惡趣味です。

それと同じように幼兒には幼兒向きの音楽指導の方法がありましよう。

やさしい、すつきりとした、端正な曲を、すなおに歌わせることは一流の聲樂家や、作曲家の眞似ることのできない幼稚園の先生方獨得の境地でしょう。幼稚園の先生方は自分の全力をその獨得の境地に十分生かして、ただ音楽の技倆があるというだけではどうすることもできないという境地を切り開いて行くべきだと思ひます。

わたくしは本誌の第三號に『からだで味わう音楽』といふ一文を寄せましたが、音楽は決して精神のみから生れたものではない。そして精神のみで味わえるものではないということとを申しておきました。私は更に音楽はからだで（七頁）

教育はできないことになる。子供の興味を刺戟したり、創作欲を起させたりするに適した、面白くて美しい繪や、標本や、玩具や、表現の材料や、道具などいろいろなものを用意しておき、また、見學や、遠足などをさせたりして、子供自身の中から盛り上がつてくる力を盛んにし、それを指導の出発点とするようにしなければならぬ。こういうことは、これ迄の國民學校よりも、幼稚園の方がむしろよくやつていたのではないかと思う。今後の幼稚園でも、益々こういうたほんとうの學習の基礎になることをやつてほしい。従つて前にもいつたように上手に繪がかけることや、巧みに手技ができることは望まない。のびのびと豊かな生活をさせてほしいのである。

話は断片的になるが、圖畫工作では、消費能力をつけることが、一つの重要な目標になつてゐる。消費能力というのは、物を一つ買うにも、あの店の品、この店の品をよく比較して見て、どちらが使つてより便利であるか、どちらが美しいか、どちらが丈夫かなど、十分考へて買う。そして買ったものは、そのものの持つてゐる使命を十分發揮するように使い、手入れや保存をよくするようなことを指すのである。お室の壁に一枚の繪をはるにも、どの邊へ、どの位の高さに、どういう風に貼るのが最もよいかを考へて貼る如きも、消費能力である。一箱のクレヨンを使うにも、ていねいによく使ひ、いつても必要なときに使える状態にして置く如きも消費

能力である。この消費能力は、實際に物を使用することによつて養われるものである。

消費能力は、これまでしつげと結ばれていたものも含み、工具や備品の扱い方とか、手入れ保存とかいわれてきたものも含み、物と物との調和に注意することや、物と室との調和、家と庭との調和に注意することの如きも含む。また、鑑賞といわれていたものも含むものであるが、これまでは、それを消費能力という見地からはあまり考へられていなかったのである。

消費能力は年齢の進むにしたがつて、進んだ程度のことを學習させることができることは當然であるが、幼稚園で可能なことも少くないと思う。

以上は、今度の小學校の圖畫工作教育の一端を述べたのですが、しかし重要な點について述べたつもりです。

(九頁から) 學ばせなくてはならないということを申し上げたいのです。特に幼児に於いてはリズムを、そして旋律を、更に和聲をそのからだに感じさせ、からだで學ばせることが大切だということを深く考へます。

小學校などの眞似をして、むづかしい音楽を、わざわざ大人びたむづかしい、固くらしい教え方で指導するということは極端に排斥しなければならぬと思ひます。そして眞に幼児向きの指導法の打ちたてられることを切望します。